



希望をもって このまちに生きる

高山市議会議長 倉田 博之

あけましておめでとうございます。皆様ご健勝にて、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、年明け早々から連日、新型コロナウイルスに関する暗いニュースが流れてまいりました。コロナ禍は私たちの生活を一変させ、マスクの常時装着やこまめな手指消毒、三密回避はもちろん外出自体の自粛など、誰もが想像しえなかった未曾有の日常を受け入れなくてはならなくなりました。そしてそれは今もなお続いています。

感染防止は何よりも優先すべきこととして、国際観光都市である本市においても春秋の祭屋台行事や多くの観光イベント、地域行事などの中止が相次ぎ、市内経済や人々の心に暗い影を落としました。学校も様々な対応を迫られ、ご家庭や学校関係者の皆さん、そして何よりも子どもたちに辛い思いをさせてしまいました。

一方、自粛生活で家族の絆が深まったという声も聞くように、私たちは今回の経験を通して、家族とともにあたりまえの生活が送れることを本当にありがたいことと再認識することができました。人との繋がりの大切さもつくづく思い知ったところです。

さらに、昨年7月には24時間降水量で観測史上第一位となる豪雨に広範囲で見舞われ、市内全域に大雨特別警報が発令されました。幸いにも人的被害はありませんでしたが、各地で浸水被害や土砂災害などが発生し、多くの皆様が避難を余儀なくされるなど、市民生活に多大な影響を与えました。地球温暖化などから、さまざまな気象現象が激甚化している現況において、より災害に強いまちづくりを早期に進めていく必要性を感じています。昨年末

には待望の宮峠トンネルが開通し、国道41号の危険箇所が回避されて通行の安全性が向上しました。また、行神橋の完成は宮川の東西区域を徒歩で結び付け、人々の回遊を誘発し、賑わいを促進するものと思われれます。

さて、大ヒット中のアニメ「鬼滅の刃」は、子どものみならず大人までもがその魅力に惹きつけられ社会現象となつていますが、映画に登場する鬼は、いずれも心の弱さに入り込んで人を操り、悪に誘います。鬼とはすなわち、自らの弱い心なのかもしれません。その鬼を振り払う主人公たちの原動力は愛するものたちへの思いであり、作品の根底に流れるものは家族愛や人間愛です。弱い人間が力を合わせて強大な敵に立ち向かっていきます。多くの人々がそれに共鳴されていることは、私たちに、困難を乗り越えていく人々の力強い心の可能性を信じさせてくれます。

鬼に付け込まれないよう心を強くするためには、希望が必要です。禍福はあざなえる縄の如く、本年は必ず素晴らしい年になります。様々なイベントは復活し、日本中に元気と勇気を、世界中に夢と感動をもたらずでしょう。産業は復興し、再びまちは賑わいを取り戻します。そしてなによりもコロナ禍は終息し、そこから得た新たな知恵が私たちの日常をさらに豊かなものにしてくれるはずです。

高山市議会は、市民の方々が希望をもってこのまちに住み続けられるよう、このまちでの生活にさらなる大きな幸せを感じていただけるよう、皆様の思いを反映した政策の提案と実現に一丸となって全集中で取り組みます。引き続きのご支援をお願いし、皆様方それぞれの益々のご発展を祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。